

企業経営者とのエンゲージメントを担う

バイサイドアナリストの役割

—いかにして経営者との相互スチュワードシップ関係を構築するのか—

木下 靖朗 CMA
森田 充

目 次

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. バイサイドアナリストをめぐる環境の変化 | 4. 相互スチュワードシップ関係の構築を目指して |
| 2. アナリストの経営者観 | 5. 終わりに |
| 3. 二つの異なるエンゲージメント | |

近年、投資先企業経営者と積極的にエンゲージメントを行う新しいバイサイドアナリスト像が期待されている。本稿では、従来のエージェンシー理論のように経営者を「エージェント型経営者」と捉えるのではなく、経営者を「スチュワード型経営者」と捉え、経営者との相互信頼に基づいたエンゲージメントを進めるアナリスト像を取り上げる。その上で、このようなアナリストに必要となる要件やスキルセットを議論し、経営者との「相互スチュワードシップ関係」の構築を目指す新しいアナリスト像を「アナリストの未来」として提唱する。

1. バイサイドアナリストをめぐる環境の変化

過去数年間にわたるわが国の資本市場をめぐる

様々な動きは、アナリストの活動の在り方や機能そのものに大きな影響を与えられられる。その最も大きなきっかけとなったのは、スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・



木下 靖朗 (きのした やすあき)

ニッセイアセットマネジメント(株)株式運用部上席運用部長。博士(経営管理)。大阪大学経済学部卒業、ロンドン大学大学院修士課程修了、青山学院大学大学院国際マネジメント研究科博士課程修了。日本生命保険入社後、東京・ロンドンにて国内外株式のアナリストなどを経て、2004年入社。08年、国内株式対話型運用のファンドマネジャーとなり現在に至る。19年より青山学院大学国際マネジメント学術フロンティアセンター特別研究員。



森田 充 (もりた みつる)

青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授。九州大学経済学部を飛び級入学のため退学、同大学院経済学府修士課程修了、及び同経済学府博士後期課程経済工学専攻修了(博士:経済学)、九州大学大学院経済学研究院学術特定研究員、2007年度より青山学院大学大学院国際マネジメント研究科助教、准教授を経て19年度より現職。国際マネジメント研究科にて日本証券アナリスト協会寄付講座「企業分析とファンド・マネジメント・シミュレーション」を担当。